

科目		単位（時間数）	時期	講師（職名）
助産学概論		1（15）	1 学期	教育主事（助産師）
目標				
助産の基本概念を理解し、助産師の責務と役割を認識できる。				
回	時間	項目	授業内容	授業方法
1	2	助産の概念	1) 助産とは 2) 出産・母子を取り巻く環境の変化 3) 医療の動向と助産の今後 4) 助産に関連する概念 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・女性の生涯を通じた健康支援	講義
		助産の歴史	1) 助産の変遷と助産師の役割 ・わが国の助産の歴史 ・諸外国の助産の歴史	講義
2	2	助産師の職制と業務	1) 助産師の定義 2) 助産師の業務・責務と展望 3) 関連法規・諸制度（※1） 4) これからの産科医療と助産師の働き方（※2）	講義
3	2	助産学を支える理論	1) 実践を支える理論とはなにか 2) 理論の種類 3) 助産学における理論 4) 関連する学問領域 ・産科学、社会学、文化人類学	講義
4	2	助産師と研究	1) 実践からエビデンスを構築する 2) エビデンスに基づく実践 ①産科診療ガイドライン ②助産業務ガイドライン ③エビデンスに基づくガイドライン（※3）	講義
5	2	助産師と倫理	1) 道德・法・倫理 2) 医療における倫理原則 3) 助産師が直面する倫理的課題 4) 助産師の職業倫理 ・看護師の倫理綱領（2003 日本看護協会） ・助産師の倫理綱領（2008 ICM）	講義
6	2	母子保健の動向	1) 母子保健の歴史 2) 母子保健の動向と諸制度 3) 母子保健施策	講義
7	2	助産師教育の変遷	1) わが国における助産師教育（※4） 2) 諸外国における助産師教育	講義
8	1	終講試験（45 分）		試験
授業形態		講義		
評価方法 点数配分		筆記試験、レポート課題など 100 点 ※授業中に提示する 履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。		

テキスト	・助産学講座 1
参考図書等	・助産業務ガイドライン *1 産科医療補償制度について 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/ 政策について→分野別の政策一覧→健康・医療→医療→医療安全対策 *2 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証制度について 一般財団法人 日本助産評価機構 http://www.josan-hyoka.org/ *3 公益社団法人 全国助産師教育協議会 お役立ち資料（通達、報告書、統計資料、ガイドラインなど） http://www.zenjomid.org/info/index.html *4 日本助産学会ホームページ http://minds4.jcqh.or.jp/minds/jam_guideline_2016/jam_guideline_2016.pdf
備考	本講義は受胎調節実地指導員認定のための講習を含む。

科目		単位（時間数）	時期	講師名（職名）		
母子の基礎科学		1（15）	1 学期	① 院外講師（医師）	（13）	
				② 院外講師（助産師）	（2）	
目標						
助産の展開に必要な、性と生殖に関する基礎科学を理解できる。						
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師	
1	2	生殖器系の形態・機能	1) 生殖器系の形態・機能 2) 細胞分裂（減数分裂） 3) 初期発生と分化 4) 性の決定と染色体異常 5) 性線の発達と異常	講義	①	
2	2	生殖機能と内分泌、神経との関連	1) 生殖機能と内分泌、神経との関連	講義		
3	2	妊娠の生理	1) 妊娠の成立・妊娠初期の変化 2) リプロダクションの解剖と整理 3) 胎盤の形成、形態・構造・機能 4) 胎児の成長と発達 5) 胎児期における臓器の成熟	講義		
4	2	遺伝と遺伝性疾患 出生前診断	1) 染色体の構造と機能 2) 遺伝子の構造と機能 3) 遺伝性疾患、出生前診断	講義		
5	2	母子と免疫	1) 妊娠と免疫 ・母体の免疫学的特性 ・胎児・新生児の免疫学的特性	講義		
6	2	生殖補助医療と倫理的諸問題	1) 生殖補助医療の実際 2) 倫理的諸問題	講義		
7	2		3) 生殖補助医療を受ける女性の心理 （1）不妊治療を受ける女性の心理 （2）出生前診断をめぐる倫理的問題について	講義	②	
8	1	終講試験（45 分）				①
授業形態		講義				
評価方法 点数配分		筆記試験 100 点（講師①90 点、講師②10 点） 履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。				
テキスト		講師① ・助産学講座 2 ・助産学講座 6 講師② ・助産学講座 2 ・助産師基礎教育テキスト 2				
参考図書等		・産婦人科診療ガイドライン 2023 産科編				
備考		講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。				

科目		単位（時間数）	時期	講師名（職名）（時間数）	
ウィメンズヘルスケア論		1（30）	1 学期	① 教員（助産師）（14） ② 院内講師（医師）（2） ③ 院内講師（管理栄養士）（6） ④ 院外講師（看護師）（4） ⑤ 院外講師（ヨガ講師）（4）	
目標					
助産の対象である母子及びその家族の健康を維持・増進するために必要な要因を理解できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	3	性の分化と発達 性行動、性の多様性	1) 性の分化と発達 2) 性行動 3) 性の多様性 ・セクシャリティとは ・からだの性とこころの性 ・ジェンダーアイデンティティ ・性の多様性	講義	①
2	1	プレコンセプションケア	1) プレコンセプションケアの概念	講義	
	2	生殖に関連した疾患 女性のライフサイクル各期における健康課題とケア	2) 思春期女性の健康課題とケア 3) 性教育		
		家族計画	4) 家族計画の意義と考え方 5) 受胎調節の実際 ・避妊法・産後の家族計画と避妊法 ＊本講義は受胎調節実地指導員認定のための講習を含む。		
3	2	女性のライフサイクル各期における健康課題とケア 生殖に関連した疾患	1) 成熟期女性の健康問題とケア 子宮内膜症、子宮筋腫、乳がん 2) 更年期女性の健康問題とケア 加齢に伴うエストロゲン欠乏症状 更年期女性のヘルスプロモーション	講義	
4	2	生殖に関連した疾患	3) 中高年女性の健康問題とケア 尿失禁、骨粗しょう症、更年期障害 子宮がん	講義	講義
5	3		4) 生殖器疾患をもつ女性のケア 【事例演習】 「良性卵巣腫瘍で卵巣腫瘍摘出術を受ける女性」 ・周術期におけるアセスメントとケア ・保健指導案の作成		

6	2	女性のライフサイクル各期における健康課題とケア	1) ジェンダーと女性のライフサイクル 2) 家族のライフサイクル 3) 性差医療と女性外来 ・女性の健康と性差医療 ・女性のライフサイクルと女性外来に求められること	講義	④
7	2		4) 産婦人科における医療者側と利用者側とのいい関係のあり方 ・相談から見る女性の健康とは ・性暴力・DV 被害者への援助のあり方 ・女性の自己決定とジェンダー		
8	2	母子の歯科保健	1) 歯の構造 2) 胎児期からの歯牙形成 3) 摂食と口腔機能の発達 ・乳児摂食反射・咬反射 ・口腔の発育、摂食機能の発達 4) 口唇・口蓋裂のある子どもの治療 5) 妊娠期の歯科保健 ・つわりやホルモン変動がう蝕と歯周疾患に与える影響 ・歯科受診に適した時期 ・歯周病が妊婦・胎児に与える影響 6) 産後の歯科保健 ・う蝕起因菌の母子間伝達の予防 ・母乳とう蝕	講義	②
9	2	食生活と母子の健康	1) 母子の栄養をめぐる課題と対策 妊娠前の「やせ」、低出生体重児の増加、成人病胎児期発症説 2) 妊産婦・授乳婦の臨床栄養 ・妊婦の食事摂取基準 ・摂取に際して留意すべき食物 ビタミンAの過剰摂取、葉酸、カルシウム、鉄 ・推奨体重増加量 ・妊産婦のための食生活指針 ・授乳婦の食事摂取基準	講義	③
10	2		3) 妊産婦の病態と栄養 ・つわり、肥満 ・糖尿病 ・妊娠高血圧症候群 ・貧血	講義	
11	2		4) 乳幼児の栄養 ・乳児の食事摂取基準 ・授乳・離乳の支援ガイド ・離乳期の栄養 5) 食物アレルギー	講義	

12 13	4	妊産婦の心身トレーニング	マタニティ・ヨガ	講義 演習	⑤
14	1	終講試験 (45 分)		試験	①
授業形態		講義、演習			
評価方法 点数配分		筆記試験 100 点 (講師① 60 点、講師③ 40 点) 履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。			
テキスト		講師① ・助産学講座 2 ・助産学講座 5 ・助産師基礎教育テキスト 2 講師②③⑤ ・助産学講座 3 講師④ ・助産学講座 5 ・助産師基礎教育テキスト 2			
参考図書等		・産婦人科診療ガイドライン 2023 産科編			
備考		講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。			

科目	単位（時間数）	時期	講師名（職名）（時間数）		
母性の心理・社会学	1（30）	1 学期	① 院外講師（社会福祉士、看護師）	（10）	
			② 院外講師（教授）	（10）	
			③ 院外講師（大学名誉教授）	（4）	
			④ 院外講師（児童福祉司）	（6）	
目標					
助産実践に必要な母子及びその家族の心理・社会面の変化や行動発達、親性と家族の発達について理解できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	文化・社会・経済的要因が母子に与える影響	1) 母子の心理・社会をめぐる諸問題 ・女性のライフサイクルにおける心理・社会的課題 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	講義	①
2	2		・少子化の社会対策と子育て支援施策	講義	
3	2		2) 性役割とジェンダー ・ワークライフバランス 女性労働と子育て	講義	
4	2		・性別役割分業と男性（父親）の労働	講義	
5	2		・子供が健やかに育つための男女共同参画社会の実現に向けて	講義	
6	2	母性意識、母子関係の形成と課題	1) 母性意識の芽生えと発達	講義	②
7	2	父子関係の形成と課題	2) 母子関係の形成 ・母親の育児に対する感情 ・乳幼児期の母子関係	講義	
8	2			講義	
9	2			講義	
10	2		3) 父子関係の形成 ・父性の形成と課題	講義	
11	2	新生児・乳幼児の認知・精神運動・情意の発達	1) ヒトの特徴について 2) 乳児にとってのヒトとモノの世界	講義	③
12	2		3) 乳児とヒトとのコミュニケーション 4) ことばの獲得過程	講義	
13	2	現代家族の諸相と病理	1) 現代家族の抱える問題とその解決 2) 児童虐待 ・児童虐待による死亡事例等の報告書の検証結果から ・ジェノグラムについて	講義	④
14	2				
15	2				

授業形態	講義
評価方法 点数配分	レポート試験：指定期日の朝 8:50 を提出期限とする。 講師① 40 点 講師② 40 点 講師③ 20 点 (レポート試験は講師①②③をそれぞれの 6 割以上を合格とする) 他の事項については履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。
テキスト	講師①②④ ・助産学講座 4 講師③ ・助産学講座 8
参考図書等	
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。

科目		単位（時間数）	時期	講師名（職名）（時間数）	
助産学研究Ⅰ		1（15）	1 学期	① 院外講師（大学准教授）（11） ② 院外講師（4）	
目標					
助産学の研究に必要な基礎的能力と科学的思考を養うことができる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	研究の理論、仮説と検証	1) 研究とはなにか 2) 量的研究と質的研究 研究デザイン 3) 研究倫理 ・研究における倫理原則 ・わが国の医学研究に関する倫理指針	講義	①
2	2	研究のプロセス	1) 研究のプロセス（概論） ・テーマ決定 ・文献レビュー ・構成概念と仮説 ・変数の定義 ・研究計画 ・研究発表	講義	
3	2	研究の実際 文献レビュー	2) 文献レビューの実際 研究テーマを決定して、以下に取り組む ・文献の種類 ・検索エンジンを用いた検索方法 ・文献の抽出 ・論文の構造 ・文献抄読（提出） ・文献カード作成（提出） ・引用文献の記述方法		
4	2		3) 調査研究の実際 ・調査対象と調査方法の決定 ・調査票の作成、プレテスト	講義 演習	
5	2		4) 研究計画書の作成 5) 倫理委員会の申請 6) 本調査の実施 ・研究依頼 ・倫理的配慮の実際	講義 演習	
6	2	データの解釈と構造化	6) データ収集と集計、分析 研究目的、データ種類に応じた分析方法 ・調査方法と尺度の種類 ・用いられる統計処理と結果の解釈 ・仮説検証 ・統計ソフトを用いた処理の実際 ・解析結果の読み取り方、記述方法	講義	②
7	2				

8	1	終講試験（45 分）	試験	①
授業形態	講義・演習			
評価方法 点数配分	筆記試験、課題提出状況 100 点（講師①60 点・講師②40 点） 履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。			
テキスト	・看護の現場ですぐに役立つ 看護研究のポイント			
参考図書等	・エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期 2024			
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。			

科目		単位（時間数）	時期	講師名（職名）（時間数）	
助産学研究Ⅱ		1（15）	1 学期 2 学期	① 院外講師（大学准教授） ② 教員（助産師）	（11） （4）
目標					
助産学を科学的に追及する姿勢を修得できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	研究計画書の作成	研究課題に即した研究プロセスの実践 ・研究フローに沿った文献抄読とリストの作成 ・既報の批判的総括的解釈 【グループ活動】 ・研究背景と研究目的の明確化 ・適正な検索ワードによる文献検索 ・適正な検索条件による文献の抽出 ・既報の文献リスト化 ・批判的総括的解釈（グループディスカッションの実施） ・結果のまとめ ・考察 （中間提出）	演習（課題）	①
2	2				
3	2	研究発表の実際と評価	研究成果発表のための資料作成 【グループ活動】 ・発表用スライド、発表原稿の作成（提出） ・抄録作成（提出）	演習（課題）	
4	2				
5	3		研究発表 ・学内発表（プレゼンテーション）、質疑応答 ・質疑内容に対応した修正（発表スライドの改善） ・研究計画書の作成（提出）	演習	
6	2	学会参加	研究発表の実際 ・学会に参加し、課題レポートを提出する。	演習 学会参加	②
7	2		※日本母性衛生学会、日本助産学会のいずれかに参加する。		
授業形態		演習、学会参加			
評価方法 点数配分		・研究発表資料 60 点、プレゼンテーション 20 点（講師①） ※文献検索の正確性・妥当性、考察の妥当性をとくに評価する。 ・レポート課題 20 点（講師②） ※提出期限 学会参加後 1 週間 履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。			

テキスト	・看護の現場ですぐに役立つ 看護研究のポイント
参考図書等	・エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期 2024
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。 * 調査および研究発表はグループで取り組み、抄録を作成し、口述で学内発表する(1月)。 発表後、必要箇所を修正し、1週間以内に抄録、最終発表スライドを提出する。